

指定発言（課題提起）

障害者放送協議会シンポジウム

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

全難聴の従来主張

- 1 字幕の付かない生放送番組等への字幕付与
- 2 緊急時、災害時等、地域放送局の身近な情報
- 3 政見放送 ・ 国会中継の字幕（参政権）
- 4 ネット上の動画の字幕（JIS X 8341-3）

4 ネット上の動画の字幕について

JIS X 8341-3 で、

収録済み動画のキャプション（字幕）を最低基準のレベル A、ライブ動画でレベル AA としている。公共調達においては JIS を尊重する規定がある。

（出典）JIS X 8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第 3 部：ウェブコンテンツ

<新たに大きくなってきた課題 1>

生放送の字幕の遅れ

「遅れが気になる」61.3%、画面と字幕がずれて楽しめない」60.8%、「CM前に字幕がカットされてしまう」57.6%等の不満がある。

(2021 年全難聴・ぴったり字幕視聴アンケート 回答 604 件)

<新たに大きくなってきた課題 2>

視聴者の受信環境の変化

ネット放送の視聴がNHKプラスやTVerに移ってきている。NHKプラス上の「ぴったり字幕」の取組もある。

だが機器の操作が不得手な高齢者には対応が難しい。従来のテレビ型の視聴環境も必要。